



京都市文化観光資源保護財団

# 会報

No. 38

慶長拾五年五月吉日



## もくじ

- 「隨想」京都の景觀 京都大学 名誉教授 岡崎文彬 P 4
- 目で見る京の文化財No.8 「絵馬の楽しさ(2)」 P 6
- 京のよさをまもって(1) 京のシンボル鴨川  
鴨川を美しくする会々長 藤谷虎男 P 9
- わたしと京の文化財(7) まつりと髪型 南ちゑ P 10
- 古い寺に住んで〈15〉 竜安寺住職 木下玄隆 P 11
- 京の伝統行事芸能① やすらい花 P 13
- 保護財団の活動 P 15

会報題字  
佐伯 勇  
表紙  
曳馬図扁額(北野天満宮)  
(京都市指定)

会報	
No. 38 59. 1. 1	
編集・発行	
財団	京都市文化観光資源保護財団
法人	京都市左京区岡崎最勝寺町京都会館内
	〒606 電話 075-752-0235 (代)

# 謹賀新年

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、当財団の運営に格別のご支援、ご協力を賜わりありがとうございました。

本年も何卒より一層のご支援、ご協力の程、お願い申し上げます。

昭和59年元旦

財団法人京都市文化観光資源保護財団

会長(京都市長)

今川正彦  
佐伯勇

募金にご協力いただき  
ありがとうございました

寄付者芳名録(敬称略) 58.4.1~58.9.30

## 一法人及び団体の部

### 〔特別会員〕

- ※株式会社三和銀行 <6,500万円>
- ※京都中央信用金庫 <3,400万円>
- ※三井信託銀行株式会社 <1,100万円>
- ※三菱信託銀行株式会社 <1,080万円>
- ※安田信託銀行株式会社 <750万円>
- ※野村證券株式会社 <750万円>
- ※立石電機株式会社 <700万円>
- ※日本新薬株式会社 <700万円>
- ※伏見信用金庫 <600万円>
- ※阪神電気鉄道株式会社 <600万円>
- ※京セラ株式会社 <550万円>
- ※株式会社ワコール <500万円>
- ※中央信託銀行株式会社 <350万円>
- ※大和証券株式会社 <300万円>
- ※日興証券株式会社 <300万円>
- ※山一證券株式会社 <220万円>
- ※株式会社村田製作所 <203万円>

- ※東武鉄道株式会社 <187万5千円>
- ※新日本証券株式会社 <150万円>
- ※西陣信用金庫 <150万円>
- 京都葵ライオンズクラブ <65万円>
- 〔普通会員〕
- ※株式会社じゅらく本社 <30万円>
- ※厚木市立睦合中学校生徒会 <28万6千7円>
- " P T A 有志一同 <23万2千5百3拾円>
- ※山勝織物株式会社 <21万円>
- ※株式会社八千代 <16万円>
- ※厚木市立厚木中学校 <15万4千7百2拾円>
- ※株式会社西陣まいづる <15万円>
- ※丸三株式会社 <15万円>
- ※京阪コンクリート工業株式会社 <13万円>
- ※株式会社山田商店 <13万円>
- ※木村実業株式会社 <11万円>
- ※株式会社曾根商店 <10万3千円>
- 〔贊助員〕
- ※福寿染工株式会社 <8万円>
- ※旅館 松葉亭 <8万円>
- ※厚木市立林中学校 <7万1千8百5円>
- ※ヤマカワ株式会社 <5万3千円>
- ※株式会社京都相互銀行秘書課 <5万円>
- ※京都市洛西竹林公園観賞者<4万9千3百7拾6円>
- ※ふじや <3万円>
- ※株式会社丸美屋 <3万円>
- 厚木市立南毛利中学校 <2万5千円>

株式会社サンプラニング <1万5千円>  
※観光客の行かない社寺をめぐる会 <1万円>  
伊勢志摩出版社編集部有志 <5千円>  
トクデン株式会社 <5千円>

## 一個人の部

### 〔特別会員〕

- ※西村平治 <100万円>
- ※高橋政幸 <27万円>
- ※親谷貞己 <22万円>
- ※田中長兵衛 <20万円>
- ※梅岡大祐 <19万3千円>
- ※竹村實 <17万5千円>
- ※丸山未棹 <13万円>
- ※田中正男 <12万1千5百円>
- ※高島国男 <12万円>
- ※山崎章 <10万5千円>
- ※天野和夫 <10万円>
- ※山崎きぬ <10万円>

### 〔普通会員〕

- ※竹内キミ子 <9万5千円>
- ※川崎武雄 <9万円>
- ※奈良行博 <9万円>
- ※今井栄一 <8万5千円>
- ※竹内孫兵衛 <8万5千円>
- ※高橋一男 <8万4千円>
- ※三原慶三郎 <7万2千円>
- ※岡本保止 <6万6千9百9拾9円>
- ※嶋津峯真 <6万6千円>
- ※村田陶苑 <6万5千円>
- ※澤田多喜子 <6万円>
- ※土手修 <6万円>
- ※加藤雅一 <5万5千円>
- ※上田長雄 <5万円>
- ※西脇弘長 <5万円>
- ※神崎順一 <4万7千円>
- ※西村弥五郎 <4万2千6百円>
- ※植松皆昌 <4万円>
- ※内田福太郎 <4万円>
- ※柴田二郎 <4万円>
- ※内田和正 <3万9千円>
- ※松島浩子 <3万5千円>
- ※佐藤昭三 <3万円>
- ※那田可つ <3万円>
- ※弘津友三郎 <3万円>
- ※田村芳子 <2万8千円>
- ※辨官弘晃 <2万8千円>
- ※井田喜智郎 <2万7千円>
- ※有本安喜子 <2万5千円>
- ※甲斐幹 <2万5千円>
- ※原満寿子 <2万5千円>
- ※矢野芳子 <2万4千5百円>
- ※大嶋真治 <2万3千円>
- ※閨崎みのり <2万1千円>
- ※岩佐静子 <2万円>
- ※大野健三 <2万円>
- ※寺島常蔵 <2万円>

※西原寿子 <2万円>  
※安田孝夫 <2万円>

### 〔贊助員〕

- ※舟木八重子 <1万9千円>
- ※木原滋 <1万8千円>
- ※久保馨 <1万8千円>
- ※田村彰敏 <1万8千円>
- ※松嶋芳子 <1万7千円>
- ※遠藤伊之助 <1万6千円>
- ※足立久次 <1万5千円>
- ※足立カネ子 <1万5千円>
- ※青木善男 <1万5千円>
- ※青木文子 <1万4千円>
- ※盛田准子 <1万4千円>
- ※江口克彦 <1万3千円>
- ※都出井芳四郎 <1万3千円>
- ※田田順三郎 <1万2千円>
- ※奥村賢三 <1万1千円>
- ※辻原麗一 <1万円>
- ※乗上繁一 <1万円>
- ※横田一志 <9千円>
- ※野阪喜一郎 <7千3百円>
- ※内山義一 <7千円>
- ※河合智 <7千円>
- ※小松好子 <7千円>
- ※恒川久男 <7千円>
- ※高木公三郎 <7千円>
- ※梶村ふみ子 <6千円>
- ※並河百合子 <6千円>
- ※西田實 <6千円>
- ※野村幸三郎 <6千円>
- ※野村鉄治 <6千円>
- ※山下えつみ <6千円>
- 飯田あさゑ <5千円>
- 木村甚一 <5千円>
- 園定義 <5千円>
- 竹内とよ <4千2百円>
- 井上康太郎 <4千円>
- 林寛彦子 <4千円>
- 山川和彥江 <3千円>
- 河合ふみ江 <3千円>
- 篠原茂 <3千円>
- 戸田ミツエ <3千円>
- 長沢京子 <2千3百円>
- 市川延繁 <2千円>
- 環直弥 <2千円>
- 武部芳太郎 <2千円>
- 森本弘子 <2千円>
- 渡辺澤子 <2千円>
- 井上豊 <1千円>
- 近藤サナエ <1千円>
- 安田節子 <1千円>

(印は、追加寄付の篤志者、寄付金額は累計額。なお、昭和58年9月30日以降の寄付者の方につきましては紙面の都合により今後順次紹介させていただきますので御了承下さい。)

## 〈隨 想〉



# 京都の景観

京都大学名誉教授

岡 崎 文 枝

各都市には特有の景観がある。とくに長い歴史に培われてきた古都には、短年月ではどのような工夫を凝らしても及ばない風格が備わっている。

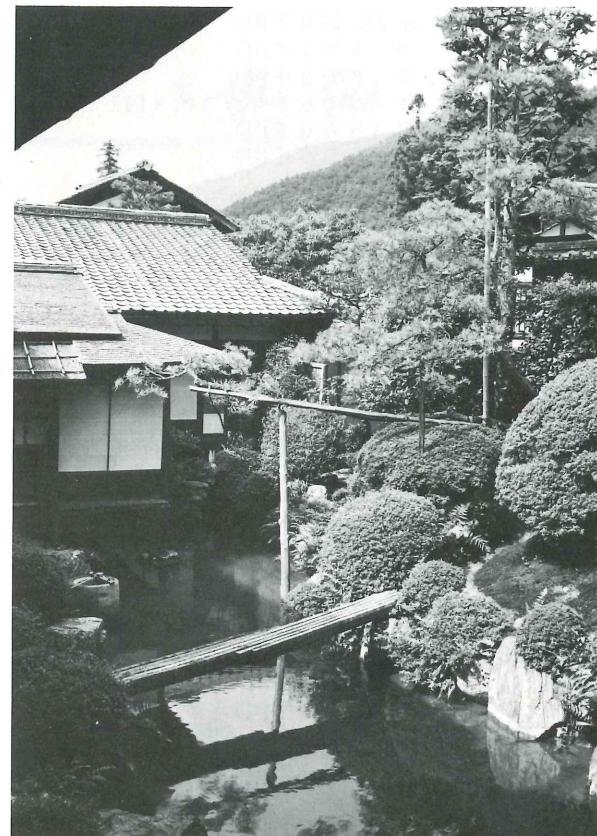
風景外観、すなわち景観は細かく類別されるが、すべての景観は自然または人工あるいは両者をエレメントとして成り立つ。

京都の景観を構成するのは、まさにその両者である。

わが国の他の大都市には望めない美しい自然が京都にはある、というより天災も少ないのでした場を選んで、桓武天皇は都を定めたにちがいない。山紫水明は千二百年後の今日も抜本的には変わっていない。むろんあとで述べるように京都市を東西北の三方からとりまく山々の林相は自然および人間の干渉によって変遷し、鴨川の流れも人力でつけかえられたが、それでも山紫水明はいまなお生き続けている。とはいっても美しい自然だけなら京都と肩をならべる、いや京都を凌ぐ小都市も少なくないであろう。京都ならでは見出せないのは美しい自然あるいはわずかに手の入った自然に千年にわたって育まれた人工の美が溶け込んでいる景観である。

長期にわたりわが国の王城だった京都には、その時々の霸者や権力者の庇護のもとに計り知れないほどの文化財が造り出された。そのうち景観に深くかかわる建造物に限っても神社、仏

閣を初めとしてその時代を反映する街なみが構築された。応仁・文明の乱が京都を焼野原にしたことはひろく知られているとおりだが、洛中洛外図から察しられるように、その後も莫大なエネルギーと英知を結集して、すばらしい文化が生まれた。しかもそれが自然景観と調和している点に注目したい。むろん私どもの祖先が作りあげたものが、すべて高い評価に値したとはいえない。むしろそれらの多くは長年月のあいだに冷静な批判に耐えかねて姿を消したのではないか。現代にひきつがれ、わが国の文化水準の高さを示す文化財は後世の、多数の人々によってその真価が認められ、大切に保存されてき



醒醐三宝院 茶庭

たものである。

おびただしい貴重な文化財が戦争の蛮行により消滅した現象は多くの国々の都市にも認められる。反面、世界の至宝が暴力をたじろがせた事例も少なくない。イスタンブルの聖ソフィア寺院はオスマン・トルコによって内部が塗りかえられただけで、彼らはミナレット（尖

塔）をつけ加えてそれをモスクに転用した。逆にイスラムの華といわれる南スペインのグラナダのアラン布拉宮殿やヘネラリーフェ離宮は、カトリック教徒の国土回復運動（レコンキスタ）が遂行されたあとも傷つけられることなく生き残った。卑近な例としては第二次大戦で大都市のうち京都だけが爆撃を免れた事実がある。

ただ一つ、ここで考えねばならぬのは文化財が周辺の自然環境を踏まえて造られる点である。たとえば見事なわが国の漆器もそのままでは輸出にむかない。湿度の低い国々では往々にしてひび割れが生ずるからである。他面外国で購入した銀製品をわが国にもち帰ると、やがて黒ずんで台なしになる。

移動の容易な美術工芸品にもまして厄介なのが建築や庭園である。わが国の社寺建築や街なみは、無意識の裡にもその時代の自然に溶け込むよう造形された。一例をあげれば東山山麓の



自然景観が美しい嵐山

歴史的名園は、少なからぬ比率を占めたアカマツ林を背景にして造り出された。近年の燃料革命で放置されるようになった東山は尾根筋を残してシイ、カシ林に遷移しつつある。背景または借景を考慮においていた庭園であるからには庭園自体を管理するだけではこと足りない。「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」もそうした主旨で制定されたのである。自然保護に反対するつもりはない。だが京都ではそれだけでは不十分であり、文化財を守ると同時に、それが成立した時点の自然景観を維持するよう努力が重ねられなければならないと考える。

## 絵馬の楽しさ<2>

今回は、一昨年にひきつづきまして京都の貴重な文化財の一つである絵馬をとりあげ、市内各社寺を中心にその代表的なものを皆様にご紹介いたします。



八坂神社 絵馬舎



蘭亭雅会図 (京都市指定・八坂神社)  
筆者：池 大雅 江戸中期



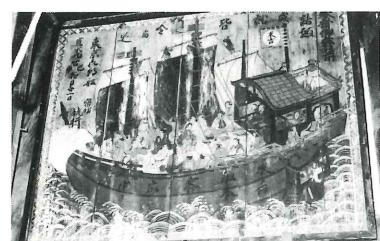
角力図 (八坂神社)  
筆者：不詳 江戸前期



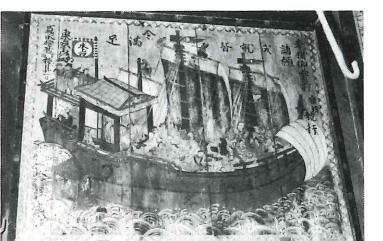
謡曲白楽天図 (八坂神社)  
筆者：梅雪堂 江戸中期



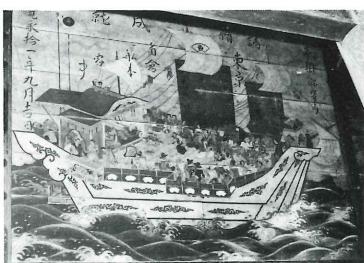
釣弧図 (八坂神社)  
筆者：西川祐信 江戸中期



末吉船図 (重要文化財・清水寺)  
筆者：木村嘉兵衛 江戸前期



末吉船図 (重要文化財・清水寺)  
筆者：不詳 江戸前期

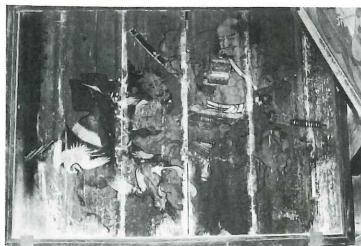


角倉船図 (重要文化財・清水寺)  
筆者：不詳 江戸前期

### ■絵馬

絵馬は、生馬による神馬の献上という古代以来の信仰からはじまったといわれる。この信仰が時代とともに馬形の器物を献上するようになり、さらに変遷をかさねて画馬（絵馬）を奉納するにいたったものである。

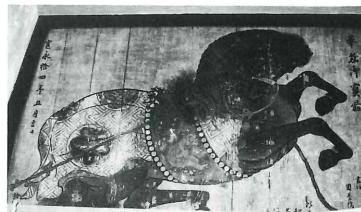
そして、近世になると社会風潮や庶民信仰とあいまって画題も多種多様になり、絵馬の奉納もふえやがて独立した絵馬堂が設けられるようになる。それとともに、一流の画家によるすぐれた作品も生まれ、今日、絵馬は近世絵画史上、貴重な資料となっている。



朝比奈草摺曳図 (清水寺)  
筆者：長谷川久蔵 安土桃山時代



白衣觀音図 (清水寺)  
筆者：宮崎友禅 作成年代不詳



繫馬図 (清水寺)  
筆者：狩野山雪 江戸前期



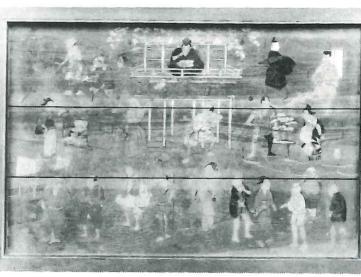
紀 貴之



源 宗千



源 順



金門五三桐図 (新日吉神社)  
筆者：東南西（北雲）作成年代不詳



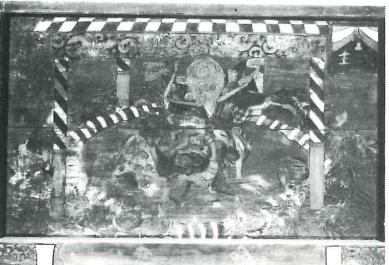
安井金比羅宮 絵馬館



意馬心猿図 (安井金比羅宮)  
筆者：江村春浦 江戸後期



双馬図 (安井金比羅宮)  
筆者：山口素絢 江戸後期



角力戯画図 (安井金比羅宮)  
筆者：不詳 江戸後期



繫馬図 (妙法院)  
筆者：狩野山樂 江戸前期



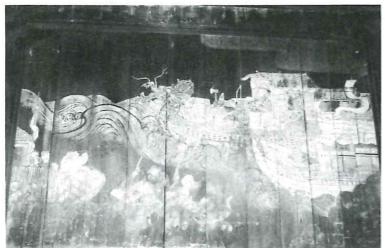
繫馬図（蓮華王院 三十三間堂）  
筆者：不詳 江戸前期



繫馬図（蓮華王院 三十三間堂）  
筆者：不詳 江戸前期



御香宮神社 絵馬舎  
(宝暦 5年・1755建立)



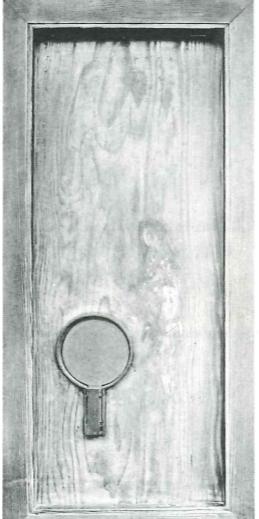
神功皇后渡海図（御香宮神社）  
筆者：不詳 江戸後期



矢之根五郎図（伏見稻荷大社）  
筆者：長谷川宗清 江戸中期



稻荷魁參図（伏見稻荷大社）  
筆者：梅川東挙 江戸後期



幽霊図（行願寺）  
筆者：十三童文彩 江戸末期

## 京都の絵馬



京都市では、昭和48年度から市内の社寺を中心に絵馬の実態調査をおこない、その調査報告書とし

て「京都の絵馬」(B5版・160頁・写真、図約270点)を発行しております。当会報では、2回にわたりこの調査報告書の一部を紹介しましたが、会員の皆様でご希望の方は、実費2,000円(送料250円必要)で取扱いしておりますので、当財団事務局までお申し込み下さい。

京のよさをまもって（1）



京のシンボル

# 鴨川

鴨川を美しくする会 会長

藤谷虎男

私どもの鴨川を美しくする会も皆様方の温かい御支援により早、成年の時を迎めました。發足以来、多彩なる美化活動をたえまなく続けて20年。月日のたつのは早きもの、よくぞここまでづづけてこられたものだと自分ながら不思議に思うぐらい感無量のものがございます。お蔭をもって京の顔としての面目を取り戻し、鮎の躍る川となりました。行政関係の積極的な施策と相まって、住民の方々が「鴨川は京の顔であり、みんなの財産である」「川は生活の鑑であり、汚濁は京都人の恥である」との高い御認識と御協力によるところであって、行政と住民が一体となりそれぞれの役割を分担しての成果であると存じます。又、鴨川は京都文化発祥の地



鴨川の景観

であり、ただの水の流れるだけの川ではなくて、歴史文化を写して流れる京都を育てた母なる川であり、我々の財産として悠久に守り続けねばなりません。何事によらず家庭より一般社会に至るまで、それぞれの立場より考えて自分を代表する存在のものがあるはずです。そのものを自分に関係ないと考えるか、自分を代表するみんなのものと考えるかのどちらかで決まるのではないかでしょうか。みんなのものである限り関係あるものは一致して協力することが一番大切なことではないかと存じます。

私達日本人は、神を敬い祖先を尊ぶ伝統の風習があります。先祖の遺産である文化財を守ることは現代人の責任であり、「日本のふるさと」としての京都としては一番の財産であります。特に取り戻すことの出来ない文化資源を護ることは自らを守ることであり、私達の義務であると存じます。みんなで京都の財産を守りましょう。



鴨川の冬景色

## まつりと髪型

南 ちゑ

私は、とにかくお祭が大好きです。なぜかといわれると地髪で皆様の髪を各時代の髪に結う事が出来るからです。母が日本髪の髪結を営み、小さい頃から丸髪まるまげや島田髪しまだまげを結いにみえるお客様の髪を見ては自分も大きくなったら髪結さんになろうと決心致しました。昭和8年に染織祭が催された時、母やその年代の方々が今は亡き江馬務先生、猪熊兼繁先生、吉川觀方先生等の御指導で色々な髪型の勉強をされているのを見て、益々日本髪の美しさにあこがれました。昭和11年、祇園祭にねりものが復興された時、吉川先生が考案、意匠されていました。その時、母のお手伝いに参ったことや又、その後吉川先生の主宰されていた「故実研究会」において写生会のモデルの結髪、化粧、着付をさせて頂きとても良い勉強をさせて頂きました。しかし、なかなか思う様に又、先生の仰るとおりの髪が結えなく何度も涙を流し、もう止めさせて頂こうと思った事も度々でした。先生は、とてもきびしく歴史や浮世絵等から各時代に於ける風俗等の勉強をさせて頂く事が出来ました。その内に戦争がきびしくなり、写生会も止めざるを得なくなってしまったのです。終戦後、世の中も復興し始め、昭和24年に美容師の資質、技術の向上を目指し吉川先生を中心に「美容文化クラブ」を結成致しました。新しい事は勿論の事、



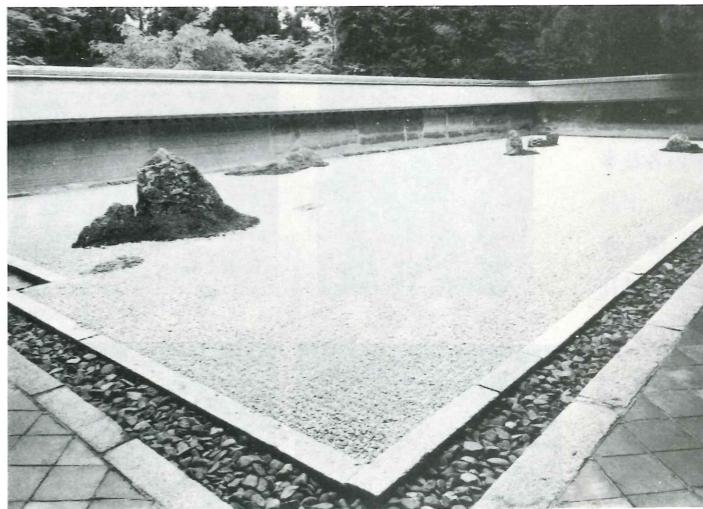
葵祭や時代祭に登場する女性の結髪や着付けをはじめ各時代の風俗や古い髪型の研究に打ち込まれている。写真は、葵祭斎王代の装束の着付けをされているところ。

古典の勉強やお茶、お花等の稽古をはじめクラブの人達によって葵祭の女人列、時代祭の江戸時代婦人列の結髪、化粧、着付をさせて頂き今日に至っております。また、昭和36年9月4日、吉川先生にご相談申し上げ櫛に感謝するお祭を行ない翌年、安井金比羅宮境内に櫛塚を建立、古墳時代から現代に至るまでの風俗行列を行ない一般の方々にも時代の移り変わりを見て頂き、年毎に参会者が増加致しまして現在では京都の年中行事の一つに挙げられるようになりました。私もこの京都に生まれ育ちまして80年、今日若い人達と共にますます京都の文化財ともいわれる日本髪の美しさを勉強していきたいと願って居ります。

古い寺に住んで  
<15>龍安寺 住職  
木下玄隆

現在の龍安寺の境内地が、衣笠山の山麓に抱かれ、鏡容池を中心とし、風光明媚、山紫水明の創建当時そのままに、六十町歩に及ぶ膨大な景観を保持し得たのは、終戦後の混乱期の惨状にも、一寸の土地も人手に渡さず、寺の境内地を確保維持された先々代住職。これにくわえて景観保全維持に必要な山林、土地を買いもどし、又新規購入し、境内地に編入して現在の景観に整備された前住職の努力があったればこそと、朝夕又四季折々の美しさに、ふれるごとに感謝いたしている次第です。

境内地の整備も終わり、寛政9年(1797年)火災により焼失したままの昭堂(開山堂)、仏殿、鐘楼等の建造物の復興を心ざし、隠居した前住



石庭で知られる特別名勝 方丈庭園

りょう 龍 安 寺

(京都市右京区龍安寺御陵下町)

大雲山と号し、臨済宗妙心寺派の寺院である。当寺は、もと徳大寺家の別荘であったが、宝徳2年(1450)細川勝元がこの地を譲りうけ妙心寺の義光玄承に帰依して建立したものである。しかし、応仁の乱により焼失し、明応8年(1499)細川政元が再興、その後豊臣秀吉や徳川氏も寺領を寄付し、隆盛期には塔頭23を数えるほどであった。その後、寛政9年(1797)の火災により方丈を残して全焼したが、近年次第に再建され今日に至っている。特に、方丈前庭は15の石で構成された枯山水様式の名園で特別名勝に指定されている。



重要文化財 龍安寺方丈(安土桃山時代建立)

職の遺命を入寺と同時に受け継ぎ、以来10年余、有縁、無縁の方々の深い御理解と協力のもとに昭堂、仏殿、鐘楼の再建復興に着手し、その間、方丈半解体修理、油土塀の改修、庫裏大屋根の瓦葺替、仏殿西側の新庭の整備等々の工事も並行して行ない、今年の春、ようやく創建当時の姿にもどすことが出来ました。これで名実ともに再建復興できたわけですが、本当に歴史のある古い寺に住んでの復興整備の大変さを、身にしみて体験いたしたとともに、よくやってこれたものと一緒についている次第です。とにもかくにも、古い歴史のある寺として多くの参拝の方々の御協力なくし

ては出来なかったと感謝いたしております。

境内地、建物など整備が出来ました今後は、生きた禅寺としての使命をはたすべく、暗中摸索している今日此頃です。又当寺のような場合は特別として京都には復興出来ずにいる由緒ある古寺、文化財等まだまだ多数あるかと存じますが、保護財団の益々の充実が、これらの復興につながるかと存じますので、ご尽力下されん事をお願い致します。



名勝庭園の苑地

## 京の主な年中行事

### 1月

- 大晦日～1日おけら詣り 八坂神社  
2日 斬始め（午前10時） 広隆寺  
4日 蹤鞠始め（午後2時） 下鴨神社  
8～12日 初ゑびす 恵美須神社  
12日 奉射祭（午後2時） 伏見稻荷大社  
14日 法界寺裸踊り（午後7時） 法界寺  
15日 柳のお加持と弓引初め  
（午前8時～） 三十三間堂  
泉涌寺七福神めぐり  
（日出～日没） 泉涌寺

### 2月

- 2～4日 節分祭 市内各社寺  
23日 五大力尊仁王会（午後1時） 醍醐寺  
24日 さんやれ祭（午前11時～） 上賀茂神社  
25日 梅花祭（午前10時） 北野天満宮

### 3月

- 14～16日 涅槃会（午前9時～） 泉涌寺・東福寺ほか  
15日 嵐お松明式（午後8時） 清涼寺  
18～24日 春の彼岸会 市内各社寺  
30日 はねず踊り（正午） 随心院

### 4月

- 8日 花まつり 清涼寺・知恩院ほか  
8日 太閤花見行列（午後1時～） 醍醐寺  
8・14・15日 嵐大念仏狂言  
（午後1時30分～） 清涼寺  
吉野太夫花供養（午前11時～） 常照寺  
壬生大念仏狂言  
（午後1時～5時30分） 壬生寺  
曲水の宴（午後2時～） 城南宮  
※都合により行事、日程が変更される場合がありますので、ご了承下さい。



## 京の伝統行事芸能①

### やすらい花

古く平安時代に起源をもつやすらい花は、春花の頃流行する疫病を退散させるため風流の扮装をして踊りながら今宮神社（疫神社）へ行き豊かな実りと無病息災を祈願したのがはじまりと伝えられる。このやすらい花は、花がその主役で、花が疫神を鎮め、この年の豊凶をうらなうものとされ、鎮花としての花の呪術性に新しく「風流の遊び」が加わり、芸能化していったようである。このやすらい花は、折鳥帽子、素襖等に装った人々がとりどりの花で飾った美しい風流傘（このなかへはいると疫病にからないという）を中心に「やすらい花や」の音頭にあわせて赤毛、黒毛の鬼が鉦や太鼓を囃しながら各町内を練り歩き、辻々や家の前などで踊るものである。現在このやすらい花は、紫野上野町の今宮やすらい花、紫野雲林院町の玄武やすらい花、西賀茂川上町の川上やすらい花、上賀茂岡本町、梅ヶ辻町の上賀茂やすらい花の四つがそれぞれ保存会を結成し継承している。



今宮やすらい花（都名所図会）



◇今宮やすらい花…北区紫野上野町4月第2日曜日  
光念寺正午出発・今宮神社午後2時30分頃到着

◇玄武やすらい花…北区紫野雲林院町4月第2日曜日  
玄武神社午前9時出発、午後5時30分頃帰社

◇川上やすらい花…北区西賀茂川上町4月第2日曜日  
大神宮正午出発、午後2時頃帰社

◇上賀茂やすらい花…北区上賀茂岡本町・梅ヶ辻町  
5月15日岡本やすらい堂午前11時20分頃出発・上賀茂神社正午頃到着



## 大鬼をつとめて

今宮やすらい会  
和田徹矢

花だよりがいっせいに満開を告げるころになると、洛北紫野にやすらい花の一団が姿をあらわす。私は、今宮やすらい花に15年近く出させていただいている。なかでも、大鬼の役をつとめさせていただいた時のことは忘れる事は出来ない。大鬼というのは、町の辻々に鉦、太鼓を打ち乱舞しながら今宮神社へと約半日、はやし続けるのである。最初に大鬼をつとめた時などは、自分が疫病にかかるてしまうのではないかと思うほど、しんどかったことを記憶してい



子鬼(かんこ)とも呼ばれる  
稚兒



やすらいの花傘



巡回するやすらい花

る。しかし、大鬼という役からは、たとえしんどくともまた来年も……と思わせる魅力がある。祭の日、カメラに取り囲まれ花形スターになつたような気分を味わえることも魅力の一つだが、何よりも歴史あるやすらい花をひきついでいるのだという実感を一番強く味わえることがすばらしい。



## やすらいの花傘

玄武やすらい踊保存会

加藤 幸三郎

直径2メートル余り、長さ2メートル70センチ位の傘に赤布（ちりめん）をつけ、花をかざりたてた花傘が町から町へと行き、鉦、太鼓に笛の音がひびきわたると町の人々は争うように大きな花傘のなかに、入っては出てゆく。これ

は春四月のやすらい花にみうけられる光景である。この花傘のなかに入ると、一年間無病息災に過せるといついたえのためである。飾りたてる花は、昔の記録によれば山桜、山吹、山しゆ、さざんか、かえでの5種とされているが、現在は必ずしもこのとおりの風習に従つてはいない。松や柳などを加えて多彩化している。この花々を戦時中までは煎じてのめば、熱さましに利くといわれて祭がおわると人々にわかちあたえられたが、現在ではこのようなことはなくなってしまった。



## やすらい花の音頭

川上やすらい踊保存会

奥村 喜四郎

「さ、三月十日 十日の御神事 やすらい花は いろよう咲いた えやみをはらい 川上やすら い めでたうござる いんやすらい花や」とは、川上やすらい花の音頭です。十日とは今4月10日のことでその前後、桜だけは早く散ってしまうが、川上やすらいの傘鉾の花は生花で桜と新芽の出た枝の無い松、椿、山吹などを取り揃える。私は、これまで鬼の鉦方で20年、その間太鼓方で2、3回程それぞれ踊った。鉦や太鼓で、神前で踊る時などただ一生懸命で音頭の終わるのもわからずに鉦、太鼓をあげていたのを思い出す。現在、私は音頭役をつとめている。笛に初まり鉦、太鼓の囃子が終わる時私が「用意」とかけ声を出しが、音頭の文句を間違えたり、かけ声や調子が早くなる時もある。「えやみをはらい」の歌のとおり世の中の病や悪い事をなくし町内安全を祈りつつ、私の後継者が出来るまで続けていきたい。

## やすらいと お稚兒さん

上賀茂やすらい保存会

戸田 秀司

上賀茂やすらい、昔疫病が流行した時、鬼が鉦や太鼓を打ち鳴らしその前で御稚兒さんが腹づつみを打ち、会釈して疫病を追い払った。私は、32年前この御稚兒さんとして出ました。当時、上賀茂は農家が大半で娯楽もなく5月15日の祭当日は大変楽しみで又、やすらいは上賀

茂のみならず周辺の各集落でも大変歓迎され、上賀茂、今宮両神社参拝後、各集落に疫病払いに出かけたのを覚えています。今年、縁あって私の息子が御稚兒さんに出させてもらい子供より親の方が晴れがましい思いをしました。現在は、農家も少なくなり生活環境が変化するなかで私どものように幼ない頃からこのやすらいに参加させてもらった者も、稚兒に出られなくても小さい頃からお囃子などで参加している者も上賀茂のよさや地域の人間性を受けつぎ、将来にわたってやすらい花を末永く伝えようと今さらのように心を新たにしております。

## 京都の文化財をまもる

### 5億円募金運動くりひろげる

#### —目標達成のため皆様のご協力をお願いします—

祇園祭や大文字五山送り火など伝統行事や各社寺をはじめとする文化財をまもるため、現在、京都市民や観光客をはじめ地元、全国の会社法人等に募金協力の呼びかけを積極的におこなっております。

会員の皆様方には、基金へのより一層のご協力をお願いするとともに、京都のよさをまもるこの運動への参加をまわりの方々にも呼びかけていただきますようお願いいたします。

○新たに基金にご協力いただきます場合は同封させていただいております納付書によりご送金下さい。



京都市内およそ500ヶ所に募金箱を設置し、当財団のおこなう募金運動のキャンペーンを実施

## 第38回文化財特別参観のご案内

### “ちょうふくじ” 長福寺

今回は、かつて真言宗の尼僧道場であり、今も清閑な趣きを残す長福寺(右京区西京極)を訪ね、境内一円の見事な椿とともに文化財を鑑賞いたします。

□参観日時 昭和59年3月10日(土)

午後2時(参観時間約2時間)

□対象者 財団募金協力者(会員)とその家族

□申込方法 住所・氏名・年令を記入し、返信用切手60円分を同封の上、封書によりお申込下さい。

□申込先 京都市左京区岡崎最勝寺町  
京都会館内 〒606  
京都市文化観光資源保護財団宛

□参加費不用

※お問い合わせは、財団事務局まで。なお、参加ご希望が多い場合、制限することがあります。



長福寺

### 編集後記



□あけましておめでとうございます。昨年は、文化財特別参観をはじめ各種の事業にたくさんの会員の皆様方がご参加、ご協力をいただきましてありがとうございました。事務局では、本年もますます皆様のご期待に添えるよう努めたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

□今回より新たに京都のよさをまもるため、それぞれの分野で活躍されている方々にご執筆願い、文化財はもとより京都の歴史、文化、自然など京都の魅力を幅広く紹介していきたいと思います。

## ◆みんなで文化財を火災から守ろう◆

### 文化財防火運動 1月23日～1月29日 京都市消防局

京都市では、「文化財防火デー」の1月26日を中心に、1月23日から29日までの1週間「みんなで文化財を火災からまもろう」をスローガンとして文化財防火運動を実施します。

この運動期間中は、市内の神社や寺院の境内、あるいはその周辺において、文化財を所有、管理されている方々と市民のみなさんが一体となって、防火座談会や消防訓練などの防火行事を行ない、文化財防火への認識をより一層高めていただくことにしています。

過去、幾多の文化財が失われた原因のほとんどが火災であり、又焼失した文化財は二度と復原することが出来ないことを考えるとき、文化財保護の第一は火災対策であるといえます。

文化財を火災から守っていくために、関係者の方々の不断の努力はもとより、当会員のみなさんをはじめ、市民、観光客一人ひとりの文化財防火に対する深いご理解とご協力をお願いします。